

本日は、諸事情によって3月3日の卒業証書授与式に出席できなかった皆さんとの卒業式を行います。入試業務の最中にも関わらず、関係の先生方がこの場に皆さんをお祝いするために出席しています。大変、ありがたいことですね。そんなことを囁みしめながら卒業にあたって、皆さんにお話をさせていただきます。

改めまして、卒業おめでとうございます。

入学間もなく新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で、県下公立高校は一斉休校をよぎなくされ、通常の学校生活が約2ヶ月遅れで始まったという前代未聞の高校生活のスタートを切った皆さんでした。「マスク着用」「昼食時の黙食」「クラブ活動の制限」等、大変、不自由な学校生活を余儀なくされましたね。そんな中でも、若者らしく潑刺と前を向いて生活してくれていたと思います。

本日6名の内5名が野球部の生徒ということで、私も曲がりなりにも中信高野連の大会運営に関わったものとして、君たちのプレーが目に焼き付いております。それは、今年の4月30日春の北信越大会1回戦対松本第一高校との試合でした。試合結果は0対10、6回コールド負けでした。4番大槻君の詰まった当たりがセカンドフライとなりアウトになった瞬間を鮮明に覚えています。■■■■君は偶然、大会前校長室の掃除当番でバッティングについて議論していました。その時にアップースウィングの話をしたのが、いけなかったのかもしれません。その時、本部席に居られた重鎮と言われる役員の方がこう仰いました。

「志学館の子たちは、のびのび楽しそうに野球をしている。必ずいつかは強くなりますよ。」気を遣ってくれたのかなと思いましたが、その後選手権大会で、対長野西に善戦した様子を見て、君たちは、あれから練習を積み重ね力をつけてくれたんだな。と感じました。

そんなことも含めて、卒業にあたって今後の人生に役立てて欲しいお話をします。

皆さん「西郷隆盛」という人物は知っていますね。江戸時代末薩摩藩の下級武士から当時の藩主に認められ、薩摩と長州の連合を果たし、江戸幕府から明治政府をつくった人物であります。その後、政府から離れ、政府に対して各地で起こっていた士族の反乱に加わり、最後は西南戦争を指揮し破れ、自刃しました。まさに波乱万丈に人生を送った人物です。

その西郷隆盛が残した言葉を紹介します。「幾たびか辛酸を歴て志始めて堅し」これを口語にすると「何度でも辛く苦しい経験をしてはじめて、志は堅牢なものとなる。」

人はなぜ、何度も辛酸をなめることになるのでしょうか？それは、おそらくその人が誠意をもって、自分が信じることを貫いて生きているからです。ぶれない軸(信念)を持って人生を真剣に生きているからこそ、時代の流れによっては苦勞する時期があるのかもしれません。目先の利益を追いかけてばかりいる人は、一見時代の流れに乗って賢く生きているように見えますが、結局のところは、そんな人は人生において「志」を遂げることは決してできないのです。このように、西郷隆盛は激動に時代を生きていました。

どうか卒業生に皆さん、「予測困難な時代」にあっても、「必ず自分の中に他の人を幸福を与える力をもっている」ことを信じて、志をもち。志を貫いてください。不器用な生き方でもいいじゃないですか。一度きりの人生です。自分に正直に他人に誠実に生きて欲しいと思います。

本日、ご参加いただきまして保護者の皆さん、お子様のご卒業おめでとうございます。

これまで学校に対してご理解とご協力をいただきましたこと感謝申し上げます。

3年間、よくお支え頂きました。高校生は思春期真っ只中であります。「自分は何者か。

自分は周りからどう見られているか。自分は誰からも支配されたくはない。」そんな気持ちが渦巻く時代です。親子関係も晴れの日ばかりではなかったと思います。我慢の連続だったかもしれません。その皆さんの気持ちは、この子たちが、同じ位の子どもをもったときに初めて理解できるものと思います。

卒業は「子供は親離れ、親は子離れする」絶好のタイミングです。子どもがいることで自分の中の寂しさを埋めてこれまで来たことも多かったと思いますが、その隙間を別なもので埋めてください。この機に新たな何かに挑戦するのもいいかもしれません。ただ、そうはいっても死ぬまで、親は親、子は子です。どうか、お子様が様々な問題を解決しようとしているときに、間違った方向に進みそうになった時だけ、一人の大人として意見していただきたいと思います。

以上で、私からの卒業生そして保護者に皆さんへのはなむけのお話を終わらせていただきます。どうか、お元気でご活躍ください。